

## 審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定 等
<b>I 審議事項</b>					
<b>1. 規則関係</b>					
提案1	地方学術会議の開催について（平成30年1月25日日本学術会議第259回幹事会決定）の一部を改正すること	渡辺副会長	B(5)	地方学術会議は年1回開催を基本とすること等を規定するため。	渡辺副会長 —
<b>2. 委員会関係</b>					
提案2	(幹事会附置委員会) 危機対応科学情報発信委員会 (1) 委員会委員の決定 (新規1件)	(1) 会長	B(7)	危機対応科学情報発信委員会の委員を決定する必要があるため。	高橋第三部幹事 内規18条
提案3	(分野別委員会) 委員会及び分科会委員の決定(【委員会及び分科会】追加2件、【小委員会】新規1件)	各部部长	B(9)	分野別委員会における委員等を決定する必要があるため。	会長 各部部长 内規18条
提案4	(分野別委員会合同分科会) 第一部合同分科会を設置すること(新規設置1件)	第一部部長	B(11)	第一部人文・社会科学基礎データ分科会を設置する必要があるため。	佐藤第一部部長 部が直接統括する分野別委員会合同分科会について第2
<b>3. 地区会議関係</b>					
提案5	2019年度各地区会議事業計画を決定すること	科学者委員会委員長	B(13)	日本学術会議地区会議運営要綱第7第2項の規定に基づき、各地区会議の事業計画を決定する必要があるため。	三成副会長 地区会議運営要綱第7-2
<b>4. 国際関係</b>					
提案6	(取下げ)				
提案7	平成31年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の決定について	会長	B(17-18)	平成31年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣を決定する必要があるため。  ※国際委員会4月22日承認、同フューチャー・アースの国際的展開対応分科会4月11日承認	武内副会長 国際学術交流事業に関する内規53条5項

提案8	平成32年度共同主催国際会議候補の追加について	会長	B(19-20)	平成32年度共同主催国際会議について、国際委員会国際会議主催等検討分科会の審議に基づき、昨年度保留とした会議の中から、以下の4件を追加の候補として決定したい。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年国際炭素材料学会議</li> <li>・2020年世界蛋白質学会議</li> <li>・第29回人工知能国際会議</li> <li>・第79回国際法協会世界大会</li> </ul> <b>※国際委員会3月27日決定、同国際会議主催等検討分科会2月18日決定</b>  <b>※既に候補として決定した3件とともに閣議口頭了解（平成31年7月頃予定）をもって正式決定</b>	武内副会長	国際学術交流事業に関する内規34条1項
提案9	平成33年度共同主催国際会議候補の決定及び保留について	会長	B(21-22)	共同主催の申請があった平成33年度開催国際会議について、国際委員会国際会議主催等検討分科会の審議に基づき、以下の5件を候補として決定したい。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際がん支持療法学会2021</li> <li>・第12回教育におけるコンピュータに関する国際会議</li> <li>・国際幹細胞学会国際シンポジウム2021</li> <li>・第19回国際動脈硬化学会議</li> <li>・第27回マグネット技術国際会議</li> </ul> また、上記とは別に2件を、今後に決定を保留する会議としたい。  <b>※国際委員会3月27日決定、同国際会議主催等検討分科会2月18日決定</b>  <b>※最終的には閣議口頭了解（平成32年7月頃予定）をもって正式決定</b>	武内副会長	国際学術交流事業に関する内規34条1項

## 5. シンポジウム等

提案10	「日本学術会議 in 富山」の開催について	地方学術会議委員会委員長	B(23-25)	主催：日本学術会議 日時：平成31年6月28日(金) 11:10～17:15 場所：富山大学黒田講堂	—	内規別表第1
提案11	公開シンポジウム「研究評価の客観化と多様化をめざして——分野別研究評価の現状と課題」の開催について	科学者委員会委員長	B(27-28)	主催：日本学術会議科学者委員会研究評価分科会 日時：平成31年5月24日(金) 13:00～17:30 場所：日本学術会議講堂 <b>※科学者委員会決定</b>	—	内規別表第1
提案12	公開シンポジウム「Gender Equality 2.0からSDGsを展望する—架け橋—～GS10フォローアップ2019～」の開催について	科学者委員会委員長	B(29-31)	主催：科学技術振興機構、日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会 日時：平成31年7月4日(木) 13:00～17:30 場所：科学技術振興機構 東京本部 地下1階大会議室 <b>※科学者委員会決定</b>	—	内規別表第1
提案13	公開シンポジウム「第24回 史料保存利用問題シンポジウム」	史学委員会委員長	B(33-34)	主催：日本学術会議史学委員会、史学委員会歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会 日時：平成31年6月22日(土) 13:30～17:30 場所：駒澤大学駒沢キャンパス <b>※第一部承認</b>	—	内規別表第1

提案14	公開シンポジウム「ゲノム医療・精密医療の多層的・統合的推進」	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長、臨床医学委員会委員長、臨床医学委員会委員長	B(35-36)	主催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会・基礎医学委員会合同ゲノム科学分科会、日本学術会議臨床医学委員会臨床ゲノム医学分科会 日時：平成31年5月18日(土) 13:00~17:00 場所：東京大学・伊藤国際学術研究センター伊藤謝恩ホール(予定) ※ <b>第二部承認</b>	—	内規別表第1
提案15	公開シンポジウム「AIと人がつくる未来社会」	第三部部长	B(37-38)	主催：日本学術会議第三部会、近畿地区会議、国立大学法人大阪大学 日時：平成31年8月1日(木) 13:00~17:40 場所：大阪大学 豊中キャンパス 大阪大学会館 ※ <b>第三部決定</b>	—	内規別表第1
提案16	公開シンポジウム「国際光デーシンポジウム2019」	総合工学委員会委員長	B(39-40)	主催：日本学術会議総合工学委員会IC0分科会 日時：平成31年6月28日(金) 13:00~17:30 場所：日本学術会議講堂、他1室 ※ <b>第三部承認</b>	—	内規別表第1
提案17	公開シンポジウム「分子科学研究所所長招聘会議「化学の近未来：化学と情報科学との融合」	化学委員会委員長	B(41-42)	主催：日本学術会議化学委員会 日時：平成31年5月29日(水) 13:00~17:30 場所：岡崎コンファレンスセンター ※ <b>第三部承認</b>	—	内規別表第1
提案18	公開シンポジウム「水環境中における医薬品及びパーソナルケア製品(PPCPs)に関する最近の動向」の開催について	健康・生活科学委員会委員長、環境学委員会委員長	B(43-44)	主催：日本学術会議健康・生活科学委員会・環境学委員会合同環境リスク分科会 日時：平成31年6月15日(土) 13:00~17:30 場所：食品衛生センター ※ <b>第二部、第三部承認</b>	—	内規別表第1

## 9. 後援

提案19	国内会議の後援をすること	会長	—	以下の会議について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ①第65回理論応用力学講演会・第22回土木学会応用力学シンポジウム 主催：公益社団法人土木学会 期間：平成31年6月28日(金)~30日(日) 場所：北海道大学札幌キャンパス 参加予定者数：340名 申請者：第65回理論応用力学講演会・第22回土木学会応用力学シンポジウム運営委員会委員長 泉典洋 ※ <b>第三部承認</b>	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	--------------	----	---	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----	-----------------

		<p>②第45回全国語学教育学会年次国際大会  主催：特定非営利活動法人全国語学教育学会  期間：平成31年11月1日(金)～4日(月)  場所：愛知県産業労働センター(ウイंकあいち)  参加予定者数：約1,600名  申請者：特定非営利活動法人全国語学教育学会代表者 リッチモンド・ストゥループ  <b>※第一部承認</b></p> <p>③こども環境学会2019年大会(九州)  『こどもにやさしいまちの居場所』  主催：公益社団法人こども環境学会  期間：平成31年5月17日(金)～19日(日)  場所：九州工業大学工学部戸畑キャンパス  申請者：公益社団法人こども環境学会代表理事 仙田満  <b>※第一部、第二部、第三部承認</b></p> <p>④特定非営利活動法人日本臨床歯周病学会第37回年次大会  主催：特定非営利活動法人日本臨床歯周病学会  期間：平成31年6月22日(土)～23日(日)  場所：札幌コンベンションセンター  申請者：特定非営利活動法人日本臨床歯周病学会理事長 浦野智  <b>※第二部承認</b></p>	
--	--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

## II その他

	件名	資料(頁)
1.	今後の総会及び幹事会開催予定 次回幹事会は5月30日(木)13時30分開催	C(1)

○地方学術会議の開催について（平成30年1月25日日本学術会議第259回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後	改正前
<p>(略)</p> <p>1 平成30年度から、地方学術会議を開催する。</p> <p><u>2 地方学術会議の開催は年1回を基本とし、あらかじめ計画を立てて開催時期及び開催場所を選定する。なお、原則として地区会議学術講演会等とは別途開催することとするが、合同の企画開催も可とする。</u></p> <p><u>3 地方学術会議において、日本学術会議がこれまで進めてきた地方における取組の強化を図ることで、地方創生へのより一層の貢献を図る こととし、実施に当たっては次に掲げる事項に留意することとする。</u></p> <p><u>1) 科学者のみならず地域のリーダー等を巻き込んだ意見交換を通じて地域の課題の解決に貢献することや、様々な地域において若い世代の科学に対する興味・関心を喚起する等の企画を実施する。</u></p> <p><u>2) 開催地の企業や地方自治体などとの交流を積極的に図り、地方における産官学の連携強化を図る。</u></p> <p><u>3) 地方における日本学術会議会員及び連携会員間の交流の促進を図るとともに、幹事会構成員と懇談し、地方の学術振興に関わる情報の共有を行う。</u></p> <p><u>4 地方学術会議は、我が国に誘致した共同主催国際会議の地方開催等の機を活用するなど、地方大学をはじめとする関係機関等と連携して行う。</u></p>	<p>(略)</p> <p>1 平成30年度から、地方学術会議を開催する。</p> <p><u>2 地方学術会議において、日本学術会議がこれまで進めてきた地方における取組の強化を図ることで、地方創生へのより一層の貢献を図る 。具体的には、科学者のみならず地域のリーダー等を巻き込んだ意見交換を通じて地域の課題の解決に貢献することや、様々な地域において若い世代の科学に対する興味・関心を喚起する等の企画を実施する。</u></p> <p><u>3 地方学術会議は、我が国に誘致した共同主催国際会議の地方開催等の機を活用するなど、地方大学をはじめとする関係機関等と連携し つつ、幹事会構成員の参加を得て行う。</u></p>

附則（平成31年4月24日日本学術会議第277回幹事会決定）  
この決定は、決定の日から施行する。



【幹事会附置委員会】

○委員の決定（新規 1 件）

（危機対応科学情報発信委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考	推 薦
渡辺 美代子	国立研究開発法人科学技術振興機構副理事	第三部会員 副会長	第三部
町村 敬志	一橋大学大学院社会学研究科教授	第一部会員 第一部幹事	第一部
杉田 敦	法政大学法学部教授	連携会員	第一部
城山 英明	東京大学大学院法学政治学研究科教授	連携会員	第一部
芳賀 猛	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	連携会員	第二部
秋葉 澄伯	鹿児島大学名誉教授	第二部会員	第二部
三村 徹郎	神戸大学大学院理学研究科教授	第二部会員	第二部
萩原 一郎	明治大学研究・知財戦略機構・特任教授、 東京工業大学名誉教授	連携会員	第三部
向殿 政男	明治大学顧問・名誉教授	連携会員	第三部
矢川 元基	公益財団法人原子力安全研究協会会長、 東京大学名誉教授、東洋大学名誉教授	連携会員	第三部
高橋 桂子	国立研究開発法人海洋研究開発機構地球情報基盤センター センター長	第三部会員 第三部幹事	第三部
平田 直	東京大学地震研究所教授、地震予知研究センター長	連携会員	第三部
和田 章	東京工業大学名誉教授	連携会員	第三部





提案 3

【委員会及び分科会】

○委員の決定（追加 2 件）

（機械工学委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
越塚 誠一	東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻教授	連携会員

（機械工学委員会機械工学企画分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
越塚 誠一	東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻教授	連携会員

【小委員会】

○委員の決定（新規 1 件）

（地球惑星科学委員会地球・惑星圏分科会地球観測将来構想小委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
中村 尚	東京大学先端科学技術研究センター教授	第三部会員
藤井 良一	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構機構長	第三部会員
沖 大幹	東京大学国際高等研究所サステイナビリティ学連携研究機構教授	連携会員
佐藤 薫	東京大学大学院理学系研究科教授	連携会員
高薮 縁	東京大学大気海洋研究所教授	連携会員
中島 映至	独立行政法人宇宙航空研究開発機構地球観測研究センター（EORC）参与	連携会員
福田 洋一	京都大学大学院理学研究科教授	連携会員
村山 泰啓	国立研究開発法人情報通信研究機構戦略的プログラムオフィス研究統括	連携会員



## 提案 4

### 部が直接統括する分野別委員会合同分科会の設置について

合同分科会の名称：人文・社会科学基礎データ分科会

1	担当部及び関係委員会名	第一部
2	委員の構成	15名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	第23期の第一部提言『学術の総合的發展をめざして：人文・社会科学からの提言』は、人文・社会科学の振興に関する多方面の重要な提言を行うとともに、総合的学術政策の構築に向けた具体策として「学術白書」作製の必要性を指摘した。これに関連し、第一部に、日本の人文・社会科学分野に関する基礎的データの収集・整理を行うことを任務とする分科会を設置する。本分科会の活動により得られた成果は、日本の人文・社会科学の現況の把握、人文・社会科学分野における各種の提言等の基礎資料（エビデンス）、人文・社会科学分野の国際比較、市民向けの人文・社会科学紹介パンフレットの作成等、人文・社会科学の振興に関するさまざまな活動に役立てられる。
4	審議事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人文・社会科学分野に関する基礎的データの収集・整理</li> <li>2. これに関連する国際動向の調査</li> <li>3. その他関連事項</li> </ol> に係る審議に関すること
5	設置期間	平成31年4月24日～平成32年9月30日
6	備考	



2019年度各地区会議事業計画（案）

地区会議名	事業名	開催時期・場所	地区会議事務局
北海道	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回地区会議運営協議会</li> <li>第2回地区会議運営協議会</li> <li>学術講演会及び科学者との懇談会（1～2回）</li> <li>第3回地区会議運営協議会</li> <li>サイエンスカフェ</li> <li>地区会議ニュースの発行（No. 49）</li> </ul>	2019年 4～5月（北海道大学） 開催月未定（同上） 開催月未定（同上） 開催月未定（同上） 2020年 開催月未定（三省堂書店札幌店） 3月	北海道大学 （研究推進部研究振興企画課）
東北	<ul style="list-style-type: none"> <li>学術講演会及び科学者との懇談会</li> <li>第1回地区会議運営協議会</li> <li>地区会議ニュースの発行（No. 34）</li> </ul>	2019年 9月～11月（福島県（予定）） 2～3月（同上） 3月	東北大学 （研究推進部研究推進課）
中部	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回地区会議運営協議会及び学術講演会 （※「日本学術会議in富山」と同日開催）</li> <li>地区会議ニュースの発行（No. 147）</li> <li>第2回地区会議運営協議会及び学術講演会</li> <li>地区会議ニュースの発行（No. 148）</li> </ul>	2019年 6月28日（富山大学） 10月 11～12月（静岡県（予定）） 2020年 3月	名古屋大学 （研究協力部研究支援課）
近畿	<ul style="list-style-type: none"> <li>学術講演会（1回）</li> <li>地区会議運営協議会及び学術文化懇談会</li> <li>地区会議ニュースの発行（No. 28）</li> </ul>	2019年 開催月・開催地未定 2020年 2～3月（未定） 3月	京都産業大学 （学長室）
中国・四国	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回地区会議運営協議会及び学術講演会</li> <li>第2回地区会議運営協議会</li> <li>地区会議ニュースの発行（No. 51）</li> <li>学術の動向への投稿（年1回）</li> </ul>	2019年 11月（山口市） 12月以降（広島大学） 2020年 1月 （未定）	広島大学 （学術室 研究企画室）
九州・沖縄	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回地区会議運営協議会</li> <li>科学者との懇談会及び学術講演会</li> <li>第2回地区会議運営協議会</li> <li>地区会議ニュースの発行（No. 118）</li> </ul>	2019年 8月（書面回議） 下半期（宮崎市※宮崎大学と共催） 2020年 3月（書面回議） 3月	九州大学 （企画部研究推進課）



平成31年度代表派遣実施計画の派遣者の決定について ※取下げ

以下のとおり、平成31年度代表派遣実施計画に基づき派遣者の決定を行う。

	会議名称	会期	開催地 -(国)-	派遣候補者 -(職名)-	内 容
1	第23回アジア社会科学研究 協議会連盟(AASSREC)総会	9月23日 ～ 9月26日	ハノイ (ベトナム)	町村 敬志 第1部会員 -(一橋大学大学院社会学研究科教授)-	・派遣時期及び派遣者の決定 ※実施計画については第275回幹事会 (平成31年2月28日)にて承認済み。
2	第23回アジア社会科学研究 協議会連盟(AASSREC)総会	9月23日 ～ 9月26日	ハノイ (ベトナム)	杉原 薫 連携会員 -(総合地球環境学研究所特任教授)-	・派遣時期及び派遣者の決定 ※実施計画については第275回幹事会 (平成31年2月28日)にて承認済み。





平成 31 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			
1	Future Earth Health Knowledge-Action Network	5 月 20 日 ～ 5 月 23 日	4 日	台湾 ----- 台北	春日 文子 連携会員 (国立研究開発法人国立環境研究所特任フェロー)	第 2 区分

※平成 31 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針(平成 31 年 2 月 28 日日本学術会議第 275 回幹事会決定)に基づく区分

## 【参考】

### 平成 31 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針

〔平成 31 年 2 月 28 日  
日本学術会議第 275 回幹事会決定〕

国際学術プログラムであるフューチャー・アース（以下「フューチャー・アース」という。）の推進を図るため、日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規（以下「内規」という。）に基づき、平成 31 年度におけるフューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針を以下のとおり定める。

フューチャー・アースにおいては、日本学術会議が日本の代表機関として国際本部事務局の機能（日本支部）の一部を担っていること、また、日本学術会議連携会員が国際本部事務局日本支部事務局長を務めていることから、平成 31 年度の内規第 51 条の各区分における国際会議等への代表者の派遣は下記の考えに基づいて行う。

#### (1) 第 1 区分

- ・フューチャー・アースの国際的な推進体制の中心である諮問委員会（AC: Advisory Committee）、評議会（GC: Governing Council）及び国際本部事務局の行う会議へ、国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- ・本年度、AC 及び GC は各一回程度、国際本部事務局会合は数回程度の開催が見込まれる。

#### (2) 第 2 区分

- ・フューチャー・アースの実施に当たり、国際本部事務局及びアジア地域事務局が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- ・具体的には、日本学術会議が国際本部事務局として運営の一部を担う予定であるグローバル研究プロジェクトに関する会議、タスクフォース及び KAN（Knowledge-Action Networks）に関する会議等への派遣を行う。
- ・上記については本年度それぞれ数回程度見込まれる。

#### (3) 第 3 区分

- ・フューチャー・アースに関する活動を広報周知するため、国際学術団体等が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を派遣する。
- ・上記に当たっては、国連の行う会議等の分野横断的、あるいは地域的な広がりがあるものを優先する。
- ・さらに、予算の状況に応じフューチャー・アースに関連するその他のグローバル研究プロジェクトの会議へ会員等を派遣する。

本基本方針に基づいて国際会議等への代表者の派遣を行う場合は、別添の様式にて事前に幹事会の議決に付すものとする。

※様式記載省略

平成32年度共同主催国際会議候補等一覧

提案 8

○今回、決定する4件（国際委員会国際会議主催等検討分科会決定、国際委員会承認）

※第261回幹事会（平成30年3月30日開催）にて「保留」とした会議の共同主催の可否の決定を行うもの。

会議名		開催予定情報				
追加	<b>2020年国際炭素材料学会議</b> International Conference on Carbon 2020 (CARBON2020)  ■母体団体：アジア炭素材料学連合（アジア地区開催のため） The Asian Association of Carbon Groups (AACG) ■主催学会：炭素材料学会	参加人数	国外	400	同伴者	0
			国内	400	同伴者	0
			合計	800	合計	0
		国数	[32カ国・地域]			
		会議内容	○会議テーマ：「伝統と革新の邂逅：新しい炭素材料学を京都から！」 ○主要題目：「グラフェン」「フラーレン、ナノチューブ」「電気化学と応用」「環境とカーボン」「炭素繊維とコンポジット」「炭素化・黒鉛化」「反応性と触媒作用」「生物・医療用カーボン材料」「工学的応用」等			
期間	2020年6月28日（日）～7月3日（金）[6日間]					
場所	京都市勤業館「みやこめっせ」（京都府京都市）					
間隔	毎年 [日本開催：12年振り2回目]					
追加	<b>2020年世界蛋白質科学会議</b> 2020 World Conference on Protein Science (2020WCPS)  ■母体団体：一般社団法人日本蛋白質科学会 Protein Science Society of Japan (PSSJ) ■主催学会：日本蛋白質科学会(PSSJ)、Asia Pacific Protein Association(APPA)、Protein Society(PS)	参加人数	国外	400	同伴者	0
			国内	1,200	同伴者	0
			合計	1,600	合計	0
		国数	[38カ国・地域]			
		会議内容	○会議テーマ：「蛋白質の構造と機能の新たな地平の開拓」 ○主要題目：「クライオ電顕とX線自由レーザーの協奏：構造生物学の新たな時代」「単一細胞レベルの分解能で見る染色体構造の動的変化」「ヒト個人ゲノム解析と展望」等			
期間	2020年7月5日（日）～10日（金）[6日間]					
場所	札幌コンベンションセンター（北海道札幌市）					
間隔	3年ごと [日本開催：16年振り2回目]					
追加	<b>第29回人工知能国際会議</b> The 29th International Joint Conference on Artificial Intelligence (IJCAI-PRICAI2020)  ■母体団体：人工知能国際会議 International Joint Conference on Artificial Intelligence (IJCAI) ■主催学会：第29回人工知能国際会実行委員会	参加人数	国外	3,000	同伴者	0
			国内	1,000	同伴者	0
			合計	4,000	合計	0
		国数	[50カ国・地域]			
		会議内容	○会議テーマ：「人工知能から社会知能へ」 ○主要題目：「探索と推論」「知識表現」「プランニング」「自然言語処理」「機械学習」「マルチエージェントシステム」等			
期間	2020年7月11日（土）～7月17日（金）[6日間]					
場所	パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）					
間隔	毎年 [日本開催：23年振り3回目]					
追加	<b>第79回国際法協会世界大会</b> The 79th World Conference of the International Law Association  ■母体団体：国際法協会 International Law Association (ILA) ■主催学会：一般社団法人国際法協会日本支部	参加人数	国外	250	同伴者	80
			国内	150	同伴者	20
			合計	400	合計	100
		国数	[60カ国・地域]			
		会議内容	○会議テーマ：「国際法—未来へのかけ橋」 ○主要題目：「国際人権法」「国際環境法」「海洋法」「国際裁判」「国際刑事法」「国際経済法」「国際取引法」等			
期間	2020年8月23日（日）～27日（木）[5日間]					
場所	国立京都国際会館（京都府京都市）					
間隔	2年ごと [日本開催：56年振り2回目]					

○（参考）第261回幹事会（平成30年3月30日開催）にて既に決定されている3件

会議名		開催予定情報				
決定	<b>第29回低温物理学国際会議</b> 29th International Conference on Low Temperature Physics (LT29)  ■母体団体：国際純粋・応用物理学連合 International Union of Pure and Applied Physics (IUPAP) ■主催学会：第29回低温物理学国際会議組織委員会、一般社団法人日本物理学会	参加人数	国外	500	同伴者	50
			国内	1,000	同伴者	50
			合計	1,500	合計	100
		国数	[68カ国・地域]			
		会議内容	○会議テーマ：「量子力学が顕著に現れる低温における現象とその応用を研究する低温物理学」 ○主要題目：「量子気体、液体及び個体」「超伝導」「磁性および量子相」「ナノ物理学と量子情報」「低温技術とデバイス応用」等			
期間	2020年8月15日（土）～22日（土）[8日間]					
場所	札幌コンベンションセンター（北海道札幌市）					
間隔	3年ごと [日本開催：18年振り3回目]					
決定	<b>第17回世界地震工学会議</b> 17th World Conference on Earthquake Engineering (17WCEE)  ■母体団体：国際地震工学会 International Association for Earthquake Engineering (IAEE) ■主催学会：日本地震工学会	参加人数	国外	1,500	同伴者	0
			国内	1,500	同伴者	0
			合計	3,000	合計	0
		国数	[80カ国・地域]			
		会議内容	○会議テーマ：「大震災からの効率的な復興と災害レジリエンスの高い社会を目指して」 ○主要題目：「多分野連携と国際連携による震災軽減」「原子力発電所と地震・津波問題」「大規模数値シミュレーションによる地震防災技術の展開」「長周期/長継続時間地震動による構造物の応答」「スマートシティと都市防災」等			
期間	2020年9月13日（日）～18日（金）[6日間]					
場所	仙台国際センター（宮城県仙台市）					
間隔	4年ごと [日本開催：32年振り2回目]					
決定	<b>アジア熱科学会議2020</b> Asian Conference on Thermal Sciences 2020 (ACTS2020)  ■母体団体：アジア熱科学工学連盟 Asian Union of Thermal Science and Engineering (AUTSE) ■主催学会：公益社団法人日本伝熱学会	参加人数	国外	400	同伴者	25
			国内	300	同伴者	25
			合計	700	合計	50
		国数	[19カ国・地域]			
		会議内容	○会議テーマ：「熱の科学と工学—その可能性とアジアからの発信—」 ○主要題目：「エネルギー」「環境」「バイオ」「科学（サイエンス）」等			
期間	2020年11月15日（日）～11月19日（木）[5日間]					
場所	シーガイアコンベンションセンター（宮崎県宮崎市）					
間隔	4年ごと [日本開催：初]					

平成33年度共同主催国際会議候補等一覧

○今回、決定する5件（国際委員会国際会議主催等検討分科会決定、国際委員会承認）

会議名		開催予定情報				
決定	<b>国際がん支持療法学会2021</b> Annual Meeting of the Multinational Association of Supportive Care in Cancer 2021 (MASCC2021) ■母体団体：国際がん支持療法学会 Multinational Association of Supportive Care in Cancer (MASCC) ■主催学会：国際がん支持療法学会2021 国内組織委員会	参加人数	国外	900	同伴者	30
	国内		600	同伴者	20	
	合計		1,500	合計	50	
	国数	[80カ国・地域]				
	会議内容 ○会議テーマ：「世界中どこでも癌治療に支持療法が実施される社会を目指して」 ○主要題目：「抗癌剤誘発嘔吐事象の制御」「皮膚粘膜障害の予防と治療」「発熱性好中球減少の予防」「神経障害の治療」「骨関連事象の制御」「がんリハビリテーションの進歩」「悪液質への対処」「若年世代へのケア」「治療中の妊孕性温存」「がんサバイバーシップ」等	期間	2021年6月24日（木）～27日（日）[4日間]			
場所	パシフィコ横浜（横浜市）					
間隔	毎年 [日本開催：初]					
決定	<b>第12回教育におけるコンピュータに関する国際会議</b> World Conference on Computers in Education (WCCE2021) ■母体団体：情報処理国際連盟 技術委員会3（教育） International Federation for Information Processing (IFIP), Technical Committee 3 (education) ■主催学会：情報処理国際連盟 技術委員会3（教育）、一般社団法人情報処理学会 コンピュータと教育研究会	参加人数	国外	350	同伴者	30
	国内		250	同伴者	10	
	合計		600	合計	40	
	国数	[50カ国・地域]				
	会議内容 ○会議テーマ：「創造性と協働性が架橋する学習者の未来」 ○主要題目：「情報教育カリキュラムと教育手法」「コンピュータと創造性」「協働的学習のための情報学的アプローチ」「コンピュータサイエンス教育」「教育改善のための情報システム」「デジタル時代における市民性・倫理と教育」「SDGsに向けた教育的取り組み」等	期間	2021年8月22日（日）～25日（水）[4日間]			
場所	広島国際会議場（広島県広島市）					
間隔	4年ごと [日本開催：初]					
決定	<b>国際幹細胞学会国際シンポジウム2021</b> ISSCR International Symposium 2021 - Tokyo, Japan ■母体団体：国際幹細胞学会 The International Society for Stem Cell Research (ISSCR) ■主催学会：一般社団法人日本再生医療学会	参加人数	国外	300	同伴者	0
	国内		300	同伴者	0	
	合計		600	合計	0	
	国数	[30カ国・地域]				
	会議内容 ○会議テーマ：「基礎研究からクリニカルトランスレーショナルリサーチへ」 ○主要題目：「各国の最新の再生医療（幹細胞）研究」「各国の再生医療等に関する規制」「再生医療の社会実装」等	期間	2021年9月1日（水）～9月3日（金）[3日間]			
場所	一橋講堂、学士会館（東京都千代田区）					
間隔	毎年 [日本開催：5年振り2回目]					
決定	<b>第19回国際動脈硬化学会議</b> The 19th International Symposium on Atherosclerosis (ISA2021) ■母体団体：国際動脈硬化学会 International Atherosclerosis Society (IAS) ■主催学会：一般社団法人日本動脈硬化学会	参加人数	国外	2,000	同伴者	10
	国内		1,000	同伴者	10	
	合計		3,000	合計	20	
	国数	[100カ国・地域]				
	会議内容 ○会議テーマ：「動脈硬化学を通して、健康長寿を実現する」 ○主要題目：「動脈硬化の診断と治療」「ガイドライン」「家族性高コレステロール血症と動脈硬化」「脂質異常症」「糖尿病と動脈硬化」「高血圧」「メタボリックシンドローム」等	期間	2021年10月24日（日）～27日（水）[4日間]			
場所	国立京都国際会館（京都府京都市）					
間隔	3年ごと [日本開催：18年振り3回目]					
決定	<b>第27回マグネット技術国際会議</b> 27th International Conference on Magnet Technology (MT-27) ■母体団体：マグネット技術国際会議 国際組織委員会 MT International Organizing Committee ■主催学会：公益社団法人低温工学・超電導学会	参加人数	国外	450	同伴者	20
	国内		500	同伴者	10	
	合計		950	合計	30	
	国数	[24カ国・地域]				
	会議内容 ○会議テーマ：「マグネット技術：超電導・低温材料、冷却技術、応用システム」 ○主要題目：「高エネルギー物理学向け加速器マグネット」「核融合向けマグネット」「強磁場発生マグネット」「電力・エネルギー・輸送向けマグネット」「マグネット向け線材及び材料」「マグネット試験・解析・設計向けツール」「マグネット関連技術」等	期間	2021年11月15日（月）～19日（水）[5日間]			
場所	福岡国際会議場（福岡県福岡市）					
間隔	2年ごと [日本開催：18年振り3回目]					



○今回、保留とする2件（国際委員会国際会議主催等検討分科会決定、国際委員会承認）

※今年度、国際会議主催等検討分科会において、再度ヒアリングを行う等検討した上で、共同主催することが適当と決定した場合、国際委員会を経て、幹事会において、追加の決定を行うもの

会議名		開催予定情報				
保留	<b>国際計測連合 第23回世界大会</b> XXIII IMEKO World Congress  ■母体団体：国際計測連合 International Measurement Confederation (IMEKO) ■主催学会：公益社団法人計測自動制御学会	参加人数	国外	430	同伴者	35
			国内	520	同伴者	15
			合計	950	合計	50
		国数	[42カ国・地域]			
		会議内容	○会議テーマ：「知能社会に向けた計測技術」 ○主要題目：「計測技術」「計量標準」「計量管理」「計測科学・工学」「IoT」「センサネットワーク」「サイバーフィジカルシステム」「身体機能計測」「環境計測」「ロボット応用計測技術」「計測の数学ツール」「食物・栄養の計測」「エネルギー応用・管理」等			
期間	2021年8月30日（月）～9月3日（金）[5日間]					
場所	パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）					
間隔	3年ごと [日本開催：22年振り2回目]					
保留	<b>第22回国際栄養学会議</b> IUNS 22nd International Congress of Nutrition  ■母体団体：国際栄養科学連合 International Union of Nutritional Sciences (IUNS) ■主催学会：公益社団法人日本栄養・食糧学会、特定非営利活動法人日本栄養改善学会	参加人数	国外	2,000	同伴者	50
			国内	2,000	同伴者	50
			合計	4,000	合計	100
		国数	[80カ国・地域]			
		会議内容	○会議テーマ：「栄養学の力で100億人を笑顔に！」 ○主要題目：「栄養学の最先端」「ライフステージをとらせた栄養」「栄養と疾病管理」「公衆栄養と食環境」「機能性食品と生理活性成分」等			
期間	2021年9月14日（火）～19日（日）[6日間]					
場所	東京国際フォーラム（東京都千代田区）					
間隔	4年ごと [日本開催：46年振り2回目]					

「日本学術会議 in 富山」の開催について（案）

1. 主催 日本学術会議
2. 共催（予定） 富山大学，富山県，富山市
3. 日時 2019年6月28日（金） 11:10～17:15（予定）
4. 会場 富山大学黒田講堂  
 第一部：黒田講堂会議室（定員104人）  
 第二部：黒田講堂ホール（定員500名）
5. 対象 第一部：日本学術会議の幹事会メンバー（会長、副会長、各部役員），  
 中部地区会議運営協議会，連携会員，科学者懇談会各県幹事，  
 富山大学長，富山大学 SDGs 担当（予定），第二部講演講師  
 第二部：第一部参加者，研究者、行政、企業の方、地域住民，学部生や大学院生
6. 概要  
 （テーマ）  
 第一部 （仮題）SDGsへの取り組み  
 第二部 富山から発信する学術研究とSDGs対応

（開催趣旨）

第一部 日本学術会議 in 富山

2015年9月の国連サミットで採択された Sustainable Development Goals (SDGs)は、国連加盟国が2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた17の目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットから構成されている。日本学術会議でもSDGsに密接に関わる取り組みを23期に実施し、多くの分科会が「提言」を公表し、日本社会が取り組むべき課題を明らかとしている。しかしながら、それらの内容は一般市民のみならず学術界でも十分に共有されているとは言い難い。日本の学術が、世界的な課題に対してどのような貢献をなすのか、十分な情報の共有を行う必要がある。そこで第一部では、日本学術会議および富山大学から、SDGsへの取り組みの活動報告を行い、日本学術会議幹事会メンバー、会員、連携会員を含む多くのメンバーで意見交換を行う。

第二部 日本学術会議 in 富山 学術講演会

第二部では、本会議を共催する富山大学から発信する学術研究として、重点的に支援推進されている研究の中から、世界トップレベルの脳科学拠点の構築を進める井ノ口教授、漢方薬による認知症予防への取り組みと地域活性化の取り組みを行っている東田教授からの研究紹介を行う。

また、第一部の内容を受け、学術研究とSDGs対応の観点から、講演とパネルディスカッションを行う。近年、気候変動に伴うと考えられる災害が世界各地で発生し、温室効果ガス排出量も増加し地球温暖化に対する適切な対応が求められ、気候変動対策として、エネルギー消費構造の変化、CO<sub>2</sub>削減、都市の低炭素化などへの対応が求められている。富山は、水深1,000mの富山湾から標高3,000mの立山連峰を有し、海洋、沿岸、都市、里山、森林、高山などの地域を有し、地球環境の縮

図モデルと捉えることが可能である。富山湾では、気候変動に伴う生物群や水循環の変化が生じており、その現状を学術的に把握し課題解決方法を考察することが、富山から日本及び世界に向けた問題意識と課題解決を発信することとなる。さらに気候変動の課題を解決する方法として、クリーンエネルギーの開発や、富山市が進めるコンパクトシティー政策は、モデルとなる可能性がある。したがって、これらの観点からの講演と幅広い参加者によるパネルディスカッションを通じて、SDGs対応の情報共有と課題解決を考える機会の提供を行う。

(プログラム)

10:00~11:00 富山大学事務局大会議室  
中部地区会議運営協議会、科学者懇談会各県幹事との打合せ

### 第一部【日本学術会議 in 富山】

#### 1) 開催挨拶

11:10~11:25

- ・山極 壽一 (日本学術会議会長・京都大学総長)
- ・戸田山 和久 (日本学術会議中部地区会議運営協議会委員, 名古屋大学大学院情報学研究科教授)
- ・齋藤 滋 (富山大学長)

#### 2) SDGs への取組み

11:25~12:25

- ・SDGs への重点取り組み状況説明(日本学術会議)
- ・富山大学でのSDGs への取り組み説明(SDG s 担当) (未定)
- ・質疑応答、懇談

#### 3) 昼食及び休憩

12:25~13:00

- ・富山大学の特色説明 ([アルスの礎]ビデオ)

### 第二部【日本学術会議 in 富山 学術講演会】

13:00~16:15

#### 1) 開会挨拶 齋藤 滋 (富山大学長)

#### 2) 学術講演会『富山から発信する学術研究とSDGs対応』

司会 森 寿 (科学者懇談会幹事, 富山大学大学院医学薬学研究部 教授)

**第1部：学術研究:脳科学と和漢薬**

13:05~13:35

#### 1. 脳科学研究

井ノ口 馨 (富山大学大学院医学薬学研究部 教授)



13:35~14:05

2. 和漢薬を基盤とした神経疾患治療薬開発

東田 千尋 (富山大学和漢医薬学総合研究所 教授)

14:05~14:25

<休憩 (20分) >

**第2部：学術研究とSDGs**

14:25~14:55

1. 気候変動と富山の水循環

張 勁 (日本学術会議連携会員・富山大学大学院理工学研究部 教授)

14:55~15:25

2. クリーンエネルギー開発

椿 範立 (日本学術会議連携会員・富山大学大学院理工学研究部 教授)

15:25~15:55

3. 富山市の取り組み

富山市 (予定)

15:55~16:15

<休憩 (20分) >

16:15~17:15

3) パネルディスカッション

パネラーは講演者、日本学術会議、行政 (富山市)、企業、地域住民などを予定し、気候変動対策の課題解決と地方創生、地域の活性化、学術の貢献 (地方学術会議の意義を含む) について議論する。

【パネラー】

○張 勁 (日本学術会議連携会員・富山大学大学院理工学研究部 教授)

○椿 範立 (日本学術会議連携会員・富山大学大学院理工学研究部 教授)

○山極 壽一 (日本学術会議会長・京都大学総長)

○富山市 (未定)

○寺西雅幸 (クラリアント触媒 (株) 取締役研究所長)

○地域住民 (予定)

4) 閉会挨拶 戸田山 和久 (日本学術会議中部地区会議運営協議会委員,  
名古屋大学大学院情報学研究科教授)

(下線の講演者等は、日本学術会議の会員・連携会員)

以上



公開シンポジウム「研究評価の客観化と多様化をめざして——  
分野別研究評価の現状と課題」の開催について

1. 主催：日本学術会議科学者委員会研究評価分科会
2. 共催：国立大学協会（予定）・大学改革支援・学位授与機構（予定）
3. 後援：無し
4. 日時：平成31年5月24日（金）13：00～17：30
5. 場所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：無し

7. 開催趣旨：

本シンポジウムは、科学者委員会研究評価分科会が2019年4月～5月にかけて実施する分野別研究評価に関する調査を踏まえ、研究評価の客観化と多様化をめざして議論することを目的とする。

昨今、研究評価が大学・研究機関における個人評価や、大学・研究機関そのものの評価の指標として利用されるようになったが、数値化できる指標が優越し、「研究評価の多様性」が見えなくなる現状が生じている。研究評価は、「研究の多様性」を前提にして、広く「研究水準の向上」や「次世代研究者の育成」につながってこそ意味がある。他方、大学という公的資源を使い、公費（資金）と時間を費やして研究する以上、研究の意義や成果、あるいは、その研究が属する学術分野の存在意義について、科学者コミュニティや科学者個人が社会や政府を説得すべきとの期待や要請はますます高まっている。ところが、隣接分野の研究評価のあり方についてさえ十分な情報をもっていない。このような現状にかんがみ、分野別研究評価の実態を明らかにするためにアンケートを実施した。一方、研究評価が人事評価や競争的研究資金採否の手段として使われている現状にあっては、研究評価の客観性についても十分に説明する必要がある。望ましい研究評価とはどのようなものなのか。さまざまな分野同士の意見交換をふまえて、展望を示したい。

8. 次第：

13:00～13:05 開会挨拶

古谷 研（日本学術会議第二部会員、創価大学大学院工学研究科教授）

13:05～13:10 挨拶（**検討中**）

13:10～13:30 趣旨説明、アンケート調査結果報告

三成 美保（日本学術会議副会長・第一部会員、奈良女子大学副学長・教授（研究院生活環境科学系））

## 第一部 研究評価の現状と課題

13:30～14:10 (基調講演)「分野別研究評価指標の現状と評価活用への課題～適切な研究評価システムを研究者コミュニティの手で構築する」

林 隆之(日本学術会議特任連携会員、政策研究大学院大学教授)

14:10～14:25 報告「総合大学における教員の研究業績の可視化の試み」(仮)

相田美砂子(日本学術会議第三部会員、広島大学理事・副学長)

14:25～14:40 報告

(検討中)

14:40～14:50 休憩

## 第二部 分野別研究評価のありかたをめぐって

14:50～15:40 分野別研究評価のありかた(分野別委員会関係、@10分)

史学委員会

地域研究委員会

基礎医学委員会

総合工学委員会

環境学委員会

15:40～16:10 若手からの提言(若手3名 @10分)

松中 学(日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院法学研究科准教授)

住井 英二郎(日本学術会議連携会員、東北大学大学院情報科学研究科教授)

大矢根 綾子(日本学術会議連携会員、産業技術総合研究所ナノ材料研究部門主任研究員)

16:10～17:20 討論

討論司会

藤井 良一(日本学術会議第三部会員、大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構長)

パネリスト

林 隆之(日本学術会議特任連携会員、政策研究大学院大学教授)

分野別報告5名

松中 学(日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院法学研究科准教授)

17:20～17:30 総括・閉会挨拶

竹中 亨(日本学術会議特任連携会員、大学改革支援・学位授与機構 研究開発部教授)

総合司会

松尾 由賀利(日本学術会議第三部会員、法政大学理工学部教授)

(下線の講演者は、分科会関係者)

9. 関係部の承認の有無：科学者委員会承認

公開シンポジウム「Gender Equality 2.0 から SDGs を展望する—架け橋—  
～GS10 フォローアップ 2019～」の開催について

1. 主 催：科学技術振興機構、日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会
2. 共 催：無し
3. 後 援：文部科学省、内閣府男女共同参画局（いずれも予定）
4. 日 時：平成31年7月4日（木）13：00～17：30
5. 場 所：科学技術振興機構 東京本部 地下1階大会議室
6. 分科会等の開催：あり  
（男女共同参画分科会 Gender Summit 10 フォローアップ小分科会）

7. 開催趣旨：

ジェンダーサミット10（G10）で行われた議論や各テーマがその後どのように取り生まれ、新たな展開が図られたか、より広い関係者で共有し、更なる議論を行う。特に、GS10 で出した東京宣言において提案した Gender Equality 2.0 が世界中でどのように共有されたか、今後どのように展開されるべきか、SDGs の観点から展望する。また、わが国の学術におけるジェンダー平等に関する継続的な取り組みを実施する流れ（PDCA）を作る。

8. 次 第：

- 13:00～13:05 開催挨拶  
濱口 道成（国立研究開発法人科学技術振興機構理事長）
- 13:05～13:10 開催挨拶  
山極 壽一（日本学術会議会長・第二部会員、京都大学総長）
- 13:10～13:15 来賓挨拶  
文部科学省科学技術・学術政策局長（調整中）
- 13:15～13:20 来賓挨拶  
池永 肇恵（内閣府男女共同参画局長）
- 13:20～13:30 趣旨説明  
渡辺 美代子（日本学術会議副会長・第三部会員、国立研究開発法人科学技術振興機構副理事）
- 13:30～13:45 講演 1  
秋山 咲恵（サキコーポレーション代表取締役社長）
- 13:45～14:00 講演 2  
伊東 昌子（日本学術会議連携会員、長崎大学ダイバーシティ推進センター 教授・

副学長)

14:00～14:15 講演 3

森 初果 (日本学術会議連携会員、東京大学物性研究所教授)

14:15～14:25 講演 4

金子 博之 (国立研究開発法人科学技術振興機構部長)

14:25～14:35 講演 5

藤原 綾乃 (科学技術・学術政策研究所主任研究官)

14:35～14:45 講演 6

小賀坂 康志 (国立研究開発法人科学技術振興機構部長)

14:45～14:55 講演 7

山口 芳 (日本放送協会国際部記者)

14:55～15:10 休憩 (配置換え)

(対談)

15:10～16:00 「文理、タッグを組む」

【登壇者】 山極 壽一 (日本学術会議会長・第二部会員、京都大学総長)

隠岐 さや香 (日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院経済学研究  
科教授)

胡桃坂 仁志 (東京大学定量生命科学研究教授)

【ファシリテーター】 渡辺 美代子 (日本学術会議副会長・第三部会員、国立研究  
開発法人科学技術振興機構副理事)

16:00～16:50 「科学の多様性が日本を創り直す」(仮)

【登壇者】 濱口 道成 (国立研究開発法人科学技術振興機構理事長)

竹山 春子 (早稲田大学理工学術院教授)

三橋 順子 (明治大学非常勤講師)

【ファシリテーター】 藤井 良一 (日本学術会議第三部会員、大学共同利用機関法  
人 情報・システム研究機構長)

16:50～17:05 コメント

伊藤 公雄 (日本学術会議第一部会員、京都産業大学現代社会学部客員教授 (ダイバ  
ーシティ推進室長兼任))

行木 陽子 (日本学術会議特任連携会員、日本アイ・ビー・エム株式会社技術理事)

三成 美保 (日本学術会議副会長・第一部会員、奈良女子大学副学長・教授 (研究院  
生活環境科学系))

17:05～17:30 会場との対話・全体総括

井野瀬 久美恵 (日本学術会議連携会員、甲南大学文学部教授)

(下線の講演者は、分科会関係者)

9. 関係部の承認の有無：科学者委員会承認





公開シンポジウム「第 24 回 史料保存利用問題シンポジウム」開催について

1. 主 催：日本学術会議史学委員会、日本学術会議史学委員会歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会、日本歴史学協会
2. 共 催： なし
3. 後 援：全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（予定）、日本アーカイブズ学会（予定）
4. 日 時：平成 31 年 6 月 22 日（土） 13：30～17：30
5. 場 所：駒澤大学駒沢キャンパス
6. 分科会等の開催：検討中
7. 開催趣旨：日本歴史学協会と共同主催で、「史料保存利用運動の再検証とアーカイブズの未来」をテーマとして、公開シンポジウムを開催することにした。趣旨は次の通りである。

趣 旨 近年の加計学園・森友学園問題にみられるように、公文書管理の在り方が厳しく問われるなか、さらに昨年は厚労省の統計不正が明るみに出るなど、公文書をめぐる問題の深刻さが増している。政府・中央官庁における公文書の改竄・隠蔽・廃棄がはびこる現状は、まさに「日本の病理」（松岡資明『公文書問題と日本の病理』平凡社新書、2018.10）の根深さを示して余りある。こうした事態を、史料保存利用運動に携わる我々は危機感をもって受け止めるとともに、ここに史料保存利用運動の来し方を顧み、行く末を考えることによって、運動のさらなる展開を視野に入れる必要がある。

そこで今回のシンポジウムでは、戦後に国や地方自治体で展開された史料保存利用運動の軌跡を振り返り、その成果である公文書館法や公文書管理法の成立過程を改めて検証することを課題としたい。具体的には、学術会議を軸とした「勧告」等による史料保存利用運動への取組、また地方自治体や全史料協などによる地域での文書館等の設立運動・史料保存利用運動の展開過程についてご報告いただく（第 1・2 報告）。一方、公文書館法附則 2 の存在が、専門職問題の足枷になって久しいなか、国文研のアーカイブズカレッジや日本アーカイブズ学会アーキビスト認証制度の制定といった取組が行われているが、今回は国立公文書館での「アーキビストの職務基準書」の検討状況をご報告いただく（第 3 報告）。こうして、史料保存利用運動への取組を再検証し、専門職問題の現状を認識するなかから、課題を見出し、アーカイブズの未来を展望したい。

8. 次 第：

13：30～13：35 開会挨拶 若尾政希（日本学術会議第一部会員、一橋大学大学院社会学研究科教授）

13：35～13：45 趣旨説明 佐藤孝之（日歴協史料保存利用特別委員会委員長）

13：45～14：25 第1報告

高埜利彦（日本学術会議連携会員、学習院大学名誉教授、日歴協常任委員）

「日本学術会議とアーカイブズ制度の進展」

14：25～15：05 第2報告

太田富康（埼玉県立文書館副館長）

「保存利用機関による運動と法制度」（仮）

15：05～15：45 第3報告

伊藤一晴（国立公文書館公文書上席専門官）

「「アーキビストの職務基準書」の作成と認証制度検討の取組について」

15：45～16：00 休 憩

16：00～17：25 パネルディスカッション

司会：大友一雄（日本学術会議連携会員、国文学研究資料館研究部教授、日歴協常任委員）

熊本史雄（駒澤大学教授、日歴協常任委員）

パネリスト：高埜利彦 太田富康 伊藤一晴

コメンテーター：栗田禎子（日本学術会議第一部会員、千葉大学大学院人文科学研究科教授、日歴協常任委員）

17：25～17：30 閉会挨拶 中野達哉（駒澤大学教授、日歴協委員長）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「ゲノム医療・精密医療の多層的・統合的推進」開催について

1. 主催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会・基礎医学委員会合同ゲノム科学分科会、日本学術会議臨床医学委員会臨床ゲノム医学分科会、東京大学ゲノム医科学研究機構

2. 共催：なし

3. 後援：(未定)

4. 日時：平成31年5月18日(土) 13:00～17:00

5. 場所：東京大学・伊藤国際学術研究センター伊藤謝恩ホール(予定)

6. 分科会の開催：なし

7. 開催趣旨：

個人のゲノム情報に基づき、個々人の体質や病状に適した、より効果的・効率的な疾患の診断、治療、予防を可能とする「ゲノム医療・精密医療」の開発研究は、現在の医学研究全体の新しい研究パラダイムとなっている。アメリカ合衆国の“Precision Medicine Initiative (PMI)”とそれに続く“All of Us Research Program”をはじめ多数の研究プロジェクトが、世界各国で推進されている。

日本においても、ゲノム医療実現推進協議会の「中間とりまとめ」が発表され、ゲノム医療・精密医療は、日本医療研究開発機構の9本の柱の1つとして研究開発が進められるにいたった。その成果の1つとして、平成31年度には、がん治療におけるパネル検査の保険収載が行われる見通しである。「中間とりまとめ」から約3年が経過し、国際状況の変化、実際の研究の取り組みや、臨床応用の試みの中で、いくつかの問題が明らかになってきている。

本シンポジウムでは、「健康・医療戦略」と「医療分野研究開発推進計画」の見直しの時期に当たり、ゲノム医療・精密医療の研究と臨床応用における現状と問題点をまとめ、今後どのように多層的・統合的に推進していくかについて議論する。

8. 次第：(予定)

13:00 開会挨拶

城石俊彦（日本学術会議第二部会員、国立研究開発法人理化学研究所バイオリソース研究センター長）

戸田達史（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院医学系研究科教授）

13:10 趣旨説明

菅野純夫（日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学難治疾患研究所非常勤講師）

13:40 講演・討論 司会：菅野純夫（日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学難治疾患  
研究所非常勤講師）  
福嶋義光（日本学術会議連携会員、信州大学医学部特任教授

テーマ1:日本人のエビデンスを得るためのゲノム解析規模の拡大

門脇 孝（日本学術会議連携会員、東京大学大学院医学系研究科特任教授、帝京大学  
医学部附属溝口病院常勤客員教授）

徳永勝士（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立国際医療研究センターゲノ  
ム医科学プロジェクト戸山プロジェクト長）

14:30

テーマ2:多層的・統合的なゲノム医療・精密医療研究の推進

辻 省次（日本学術会議連携会員、東京大学大学院医学系研究科特任教授、国際医  
療福祉大学ゲノム医学研究所長）

村上善則（日本学術会議連携会員、東京大学医科学研究所癌・細胞増殖部門教授）

<休憩>

15:30

テーマ3:ゲノム医療・精密医療を推進する上での環境の整備

建石真公子（日本学術会議連携会員、法政大学法学部教授）

櫻井晃洋（日本学術会議連携会員、札幌医科大学医学部遺伝医学教授）

16:20 総合討論

16:50 閉会挨拶

福嶋義光（日本学術会議連携会員、信州大学特任教授（医学部））

9. 関係部の承認の有無：第二部承認（予定）

（下線の登壇者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「AIと人がつくる未来社会」の開催について

1. 主 催：日本学術会議第三部会、近畿地区会議、国立大学法人大阪大学
2. 後 援：一般社団法人情報処理学会、一般社団法人電子情報通信学会、国立研究開発法人情報通信研究機構、大学共同利用機構法人情報・システム研究機構国立情報学研究所、文部科学省 Society 5.0 実現化研究拠点支援事業「ライフデザイン・イノベーション研究拠点」(予定)
3. 日 時：平成 31 年 8 月 1 日 (木) 13:00~17:40
4. 場 所：大阪大学 豊中キャンパス 大阪大学会館
5. 分科会等の開催：学術会議第三部会開催 (午前中)

6. 開催趣旨：

AI (人工知能) や IoT (Internet of Things) などの技術の急速な進展に伴い、ロボットと人との共生や、脳科学と情報科学の融合など、新たな技術が数多く創出され、人々の生活や社会システムの中で AI や IoT が様々な形で活用されるようになってきています。一方、社会システムに安易に組み込まれた AI や IoT がもたらすバイアス、プライバシー 保護やセキュリティの課題なども問題となってきています。本シンポジウムでは、「AI と人がつくる未来社会」について多角的に論じるとともに、未来社会構築における学術の貢献について議論します。

7. 次 第：

司会

東野 輝夫 (日本学術会議第三部会会員、大阪大学大学院情報科学研究科教授)

13:00-13:20 主催者挨拶

開会挨拶

西尾 章治郎 (日本学術会議連携会員、大阪大学総長)

日本学術会議第三部会・部長挨拶

大野 英男 (日本学術会議第三部会会員・部長、東北大学総長)

関西地区会議代表幹事挨拶

伊藤 公雄 (日本学術会議第一部会会員・近畿地区会議代表幹事、京都産業大学現代社会学部客員教授)

13：20 「人と関わるロボットの研究開発」  
石黒 浩（大阪大学大学院基礎工学研究科教授／大阪大学共生知能システム研究センター長）

14：10 「ヒト脳情報研究と人工脳モデル」  
柳田 敏雄（大阪大学大学院基生命機能研究科特任教授／理化学研究所生命システム研究センター長）

15：00－15：20 （ 休憩 ）

15：20 「AI 社会の歩き方」  
江間 有沙（東京大学未来ビジョン研究センター特任講師）

15：50 「人と AI を言葉でつなぐ～自然言語処理による言語理解～」  
荒瀬 由紀（大阪大学大学院情報科学研究科准教授）

16：20－16：30 （ 休憩 ）

16：30

総合討論「AIと人がつくる未来社会」

司会 徳田 英幸（日本学術会議第三部会会員・副部長、国立研究開発法人情報通信研究機構・理事長）

パネリスト 石黒 浩、柳田 敏雄、江間 有沙、荒瀬 由紀、八木 康史（大阪大学理事・副学長）

17：30

閉会挨拶

山極 壽一（日本学術会議第二部会会員・会長、京都大学総長）（予定）

17：40 閉会

9. 関係部の承認の有無：第三部会承認

（下線の講演者等は、主催委員会(分科会)委員）

公開シンポジウム「国際光デーシンポジウム 2019」の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会 IC0 分科会
2. 共 催：国際光年協議会
3. 後 援：公益社団法人応用物理学会、一般社団法人日本物理学会、公益社団法人日本化学会、一般社団法人電子情報通信学会、一般社団法人レーザー学会、公益社団法人日本分光学会（以上、予定）
4. 日 時：平成 31 年 6 月 28 日（金）13:00～17:30
5. 場 所：日本学術会議講堂 外 1 室、講堂前ロビー、ラウンジ
6. 分科会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：2015 年の国際光年行事に引き続き、ユネスコにより制定された国際光デーを記念するシンポジウムを 2018 年 7 月に開催した。本年もこの趣旨を引き継ぎ、光科学技術の歴史と現状を俯瞰し、最先端の話題を紹介する講演会を開催する。これにより、この分野が生み出したインパクトや今後のイノベーションを国内にアピールすると共に、幅広い世代や立場の研究者を発表者とする事で、学会間交流、世代間交流、次代の若手育成、新しい産業やコミュニティーの創出を推進する。
8. 次 第：
  - 13:00 開会挨拶  
荒川 泰彦（日本学術会議連携会員、東京大学ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構 特任教授）
  - 13:10 基調講演  
五神 真（日本学術会議第三部会員、東京大学総長）
  - 13:50 講演 1  
 伊賀 健一（東京工業大学名誉教授）
  - 14:20 講演 2  
 山本 喜久（革新的研究開発推進プログラム ImPACT プログラムマネージャー）

- 14 : 50 講演 3  
石川 哲也 (理化学研究所放射光科学総合研究センター センター長)
- 15 : 20 講演 4  
合田 圭介 (東京大学理学系研究科教授)
- 15 : 50 挨拶  
松尾 由賀利 (日本学術会議第三部会員、法政大学理工学部教授)
- 16 : 00 ポスター講演  
国内研究グループから推薦された研究者 65 名
- 17 : 30 閉会

※ 当日、ロビー及びラウンジにてポスター展示予定

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の講演者等は、主催分科会委員)



公開シンポジウム「分子科学研究所所長招聘会議「化学の近未来：化学と情報科学との融合」の開催について

1. 主 催：日本学術会議化学委員会  
大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所、  
公益社団法人日本化学会戦略企画委員会
2. 日 時：平成31年5月29日（水）13：00～17：30
3. 場 所：岡崎コンファレンスセンター
4. 分科会の開催：開催予定
5. 開催趣旨：本会議は、上記のとおり、日本学術会議化学委員会、分子化学研究所、および日本化学会戦略企画委員会の合同開催会議として毎年開催し、化学分野における種々の重要課題を取り上げて議論し、報告、提言をしてきた。日本学術会議第24期は、重要テーマの一つとして「化学とAI」を取り上げている。AI（人工知能）は瞬く間に社会のあらゆる場面で存在感を増し、学術のどの分野においても注目されている。大学における教育では、この点も考慮しながら多様な場面に対応できるグローバルな人材の育成が必要とされます。そこで本会議では、この観点に基づいて、化学の近未来について議論する。
6. 次 第：
  - 13：00 挨拶  
川合 眞紀（日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所所長）
  - 13：05 報告  
加藤 昌子（日本学術会議第三部会員、北海道大学大学院理学研究  
院教授）
  - 13：15 趣旨説明「化学・情報科学の融合による新化学創成に向けて」  
阿尻 雅文（日本学術会議第三部会員、東北大学材料科学高等研究  
機構教授）
  - 13：45 講演「合成化学におけるAIの意味」  
松原 誠二郎（京都大学大学院教授）
  - 14：15 講演「学ぶAIから使うAIへ ―「AIと化学」の時代の情報教育―」  
阿久津 典子（大阪電気通信大学工学部教授）
  - 14：45 休憩
  - 15：00 講演「化学データの戦略的収集と戦略的創出」

上村 みどり（帝人ファーマ株式会社上席研究員）

15：30 講演「新化学創成センター—AI時代のデータ創出と機能分子創成—」

石原 司（国立研究開発法人産業技術総合研究所主任研究員）

16：00 講演「学術から生産プロセスまで」

山下善之（東京農工大学大学院教授）

16：30 総合討論

17：30 閉会

7. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催委員会委員）

公開シンポジウム「水環境中における医薬品及びパーソナルケア製品  
(PPCPs)に関する最近の動向」の開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会・環境学委員会合同環境リスク分科会
2. 共 催：環境ホルモン学会（正式名：日本内分泌攪乱化学物質学会）  
一般社団法人セタックジャパン
3. 日 時：平成 31 年 6 月 15 日（土）13:00-17:30（予定）
4. 場 所：食品衛生センター
5. 分科会等の開催：開催予定なし
6. 開催趣旨：医薬品・生活関連物質 (PPCPs：Pharmaceuticals and Personal Care Products)は国内外の水環境で検出され、新たな環境問題として世界的な課題となっている。鎮痛剤、抗生物質、抗うつ剤など多くの薬品が河川などから検出されているが、中には難分解性の PPCPs も環境から検出され、生物への蓄積も報告されている。本講演会では、PPCPs 問題の現在の状況について情報を共有し、PPCPs のリスクがどのように評価されているのか、国内外でどのような規制がなされているのか、実際に生物にどのような影響が考えられるのか、などについて専門家による講演を行い、参加者と広く議論する。
7. 次 第：
  - 13:20-13:25 開会の挨拶 那須民江（日本学術会議連携会員、中部大学生命健康科学部特任教授）
  - 13:25-13:30 講演会趣旨の説明
  - 13:35-14:10 PPCPs 問題の発端と現状 井口泰泉（横浜市立大学生命ナノシステム科学 研究科特任教授）
  - 14:10-14:45 PPCPs の環境中での存在状況 田中宏明（京都大学大学院工学研究科教授）
  - 14:45-15:00 休憩
  - 15:00-15:35 PPCPs と下水処理 小川文章（国立研究開発法人土木研究所上

席研究員)

15:35-16:10 PPCPs の水生生物への影響 井原賢 (京都大学大学院工学研究科准教授)

16:10-16:45 PPCPs のリスク評価 山本裕史 (国立研究開発法人国立環境研究所生態毒性研究室室長)

16:45-17:20 PPCPs の国内外の規制動向 西村哲治 (帝京平成大学薬学部教授)

17:20-17:25 閉会の挨拶 益永茂樹 (日本学術会議連携会員、横浜国立大学大学院環境情報研究院教授)

8. 関係部の承認の有無：第二部・第三部承認

(下線の講演者等は、主催

分科会委員)